

付録B 受理後出版原稿用フォーマット

基本は査読原稿と同様ですが、一つのMs-Wordファイルに本文・図表の順で作成の上、Ms-Word形式ならびにPDF形式の両方を提出して下さい(ファイルサイズはそれぞれ95 Mbyte以下で作成して下さい)。図表については300 dpi以上の解像度とし、それぞれページを分けて作成して下さい。

[和文タイトル]

物理探査最終原稿書式について

[和文著者名]

物理探査学会会誌編集委員会*・著者A1**・著者B**・著者C*3

※ 著者名は「・」で区切ってください。

※ 名字と名前の間などに適宜空白をいれて、見やすくしてください。

[和文所属・住所]

* 物理探査学会会誌編集委員会

〒101-0031 東京都千代田区東神田1-5-6 MK第5ビル 2F

** XX大学大学院XX研究科XX専攻XX分野

〒XX-XXXX XX市XX区XXXX

*3 株式会社XX XX XXXXセンター

〒XXX-XXXX XXX市XX区XXX

第XXX回(平成XX年度秋季)学術講演会にて(一部を)発表

↑

原稿の内容の全部または一部をすでに当学会学術講演会で発表している場合は、講演会の回番号・開催年・季を書き添える。

※可能ならば行番号を付与(5行ごと、あるいは各行)

書式例(参考)

読みやすい範囲で自由に設定下さい。

余白

上30mm程度, 下20mm程度

左20mm程度, 右20mm程度

とししろ0mm

文字数:45文字程度/行

行数:30行程度/頁

ヘッダー・フッターなし

段組:1段または2段

フォント:明朝, ゴシック, Century, Times等

フォントサイズ:10pt程度

[英文タイトル]

Format of the submitted paper to the Butsuri-Tanasa

[英文著者名]

SEGJ Editorial Committee *, Author A**, Author B ** and Author C*3

※著者名は「,」で,最後の著者名の前は「and」で区切ってください。

[英文所属・住所]

* SEGJ Editorial Committee

1-5-6, Higashi Kanda, Chiyoda-Ku, Tokyo 101-0031, Japan

** XX, XX University

XX, XX, XXX-XXXX, Japan

*3 XX, XX University

XX, XX, XXX-XXXX, Japan

A part of this paper was presented at the XXXth SEGJ fall conference, 20XX.

↑
原稿の内容の全部または一部をすでに当学会学術講演会で発表している場合は, 講演会の回番号・開催年・季を書き添える。

[和文要旨]

和文要旨は全角800文字以下(スペースを含む)にまとめて下さい。

[和文キーワード]

ここに日本語のキーワードを並べます(5個程度)。キーワード間は「・」で区切って下さい。

[英文要旨]

英文要旨は半角3000文字(スペースを含む)にまとめてください。

[英文キーワード]

ここに英語のキーワードを並べます(5個程度)。キーワード間は「,」で区切ってください。

[本文]

ここでは会誌「物理探査」への投稿時の原稿(査読用原稿)に関するフォーマットをまとめています。最終原稿とは異なり、本例を参考に自由なフォーマットでかまいません。ただし以下の項目は必須です。

- ・ 和文タイトル →本ファイルP. 1参照
- ・ 和文著者名 →本ファイルP. 1参照
- ・ 和文所属・住所 →本ファイルP. 1参照
- ・ 英文タイトル →本ファイルP. 2参照
- ・ 英文著者名 →本ファイルP. 2参照
- ・ 英文所属・住所 →本ファイルP. 2参照
- ・ 和文要旨 →本ファイルP. 3参照
- ・ 和文キーワード →本ファイルP. 3参照
- ・ 英文要旨 →本ファイルP. 4参照
- ・ 英文キーワード →本ファイルP. 4参照
- ・ 本文
- ・ 参考文献リスト
- ・ 表(Table 1, Table 2, ...) →本ファイルP. 7参照
- ・ 図(写真を含む) (Fig. 1, Fig. 2, ...) →本ファイルP.8～9参照

※ 句読点には「。」「，」を使用してください。

※ その他, 詳細につきましては投稿要領をご覧ください。

※ 図・表には, Table 1, Fig. 1などの番号, キャプション(原則として英文)を添えて下さい。図表の中の文字も原則として英文でお書き下さい。

[参考文献] (例)

Ando, M. (1975): Source mechanisms and tectonic significance of historical earthquakes along the Nankai Trough, Japan, *Tectonophysics*, 27, 119-140.

芦寿一郎・倉本真一・森田澄人・角皆潤・後藤秀作・小島茂明・岡本拓士・石村豊穂・井尻暁・土岐知弘・工藤新吾・浅井聡子・内海真生(2002): 熊野沖南海トラフ付加プリズムの地質構造と冷湧水ーYK01-04 Leg2熊野沖調査概要ー, *JAMSTEC深海研究*, 20, 1-8.

Bear, J. (1972): *Dynamics of fluids in porous media*, American Elsevier Environmental Sciences, (Biswas, A. K. ed.), American Elsevier Publishing Company, Inc.

⋮
⋮

(以下略)

Table 1. Example of table

(例)

※英数字のフォントとしてはCentury・TimesなどのRoman体をご使用下さい。

(原寸大)

ご注意

図のキャプションや表中の文字は原則として英文でお書き下さい。

(本表は説明のため日本語としております)。

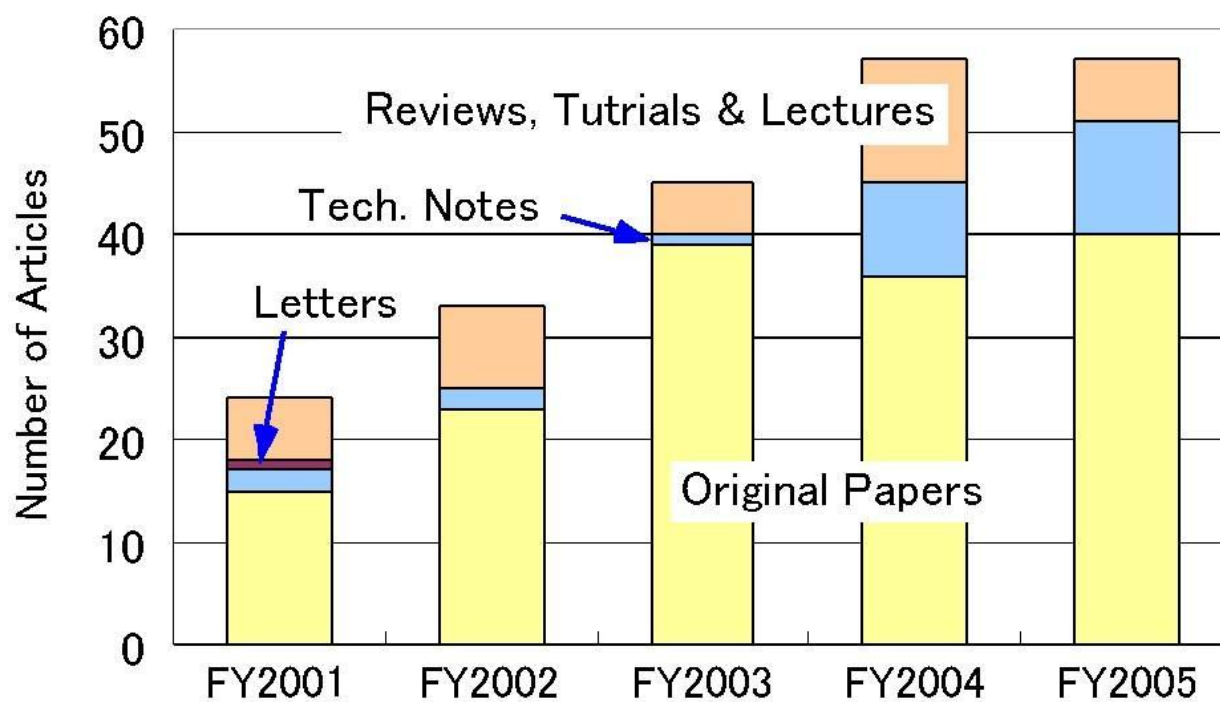
Fig.1. Example of figure (narrow)
(例)



ご注意

キャプションや図の中の文字は原則として英文でお書き下さい。
300 dpi以上で作成して下さい。

Fig.2. Example of figure (wide)
(例)



ご注意
 キャプションや図の中の文字は原則として英文でお書き下さい。
300 dpi以上で作成して下さい。